

米子、境港両市

在宅要介護高齢者を支援

来月から試行事業開始

定期訪問や電話対応窓口

米子、境港両市が、来年度から介護保険サービスに加わる「24時間対応定期巡回・随時サービス」の試行事業を、9月にスタートさせる。在宅を望む要介護高齢者を支える新たな制度で、短時間の定期訪問に加え、電話などによる24時間対応の窓口を設置し、ニーズを把握する。

巡回・随時サービスは、独居や、高齢者2人の「老老世帯」が増える中、介護が必要となった際に、本人の希望に反して施設に入所するケースが多い現状を改めるため、来春からの導入が決まっている。

服薬介助、おむつ交換など1回20分未満の定期

訪問と、24時間対応可能な相談サービスの組み合わせで、在宅の要介護高齢者を増やす狙い。今回の試行は、来年3月末までの国のモデル事業で、国は検証結果を基に、報酬など制度の詳細を決める。

米子市は老人福祉施設「なんぶ幸朋苑」(同市

石井)と「よなご幸朋苑」(同市上後藤3丁目)と委託契約を締結。在宅と高齢者専用賃貸住宅に暮らす利用者17人を対象に、従来の訪問介護サービスなどから巡回・随時サービスに移行してもらい、要介護

の変化や利用実態を検証する。市の担当者は「問

題点を把握して来年度の事業実施に備えたい」と話す。

境港市は「さかい幸朋苑」(同市誠道町)に委託。9月中旬から在宅の7、8人を対象とし、最大15人の利用を見込む。市内には、本格的に夜間訪問介護を手掛ける事業所がないことから、市は夜間の定期訪問の需要把握に努めたいとしている。

利用者の負担料は、米子、境港両市とも要介護度などによって月額1万円、7千円、3500円の3パターンとする。